

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立北かわち阜が丘高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	①授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）の向上 ②補習・講習への参加、家庭学習、資格取得などの生徒の学習意欲の向上 ③外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 ④希望進路実現率の向上 ・難関・中堅私立大学への進学者数の増加 ・就職試験（1次）の合格率向上
計画名	さつき「授業力向上」プロジェクト ～進路実現のための素養（考える力、学ぶ意欲）を育む～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 学力向上と進路実現 （1）教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。 ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。 イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 （2）自学自習する力を育む。 ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。 イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。
事業目標	ICT 機器を随時使用できる環境を普通教室に整備し、すべての教員がそれを活用することにより、生徒同士が対話を通じて自身の考えをまとめ、発表・共有する等、生徒の主体的な活動を取り入れた「魅力的な授業・わかる授業」を実施する。 「授業力向上委員会」を組織し、ICT 機器を活用した研究授業や、教材開発・指導法の研究等、学校全体で「授業改善」を図ることにより、学校全体の授業の質を高め、より「主体的・対話的で深い学び」を実現する。また、授業改善による質の高い授業を提供することで、生徒の授業満足度や学習意欲の向上を図る。 また、大学の出前講座や体験授業への参加、他の府立高校の課題研究発表会等への参加を促進し、卒業後の進路に必要な素養を身につけさせる。また、資格試験等への取組みを推進し、資格取得による達成感や、次に繋がる学習意欲の醸成を図る。これらの取組みを通じて生徒たちが希望する進路の実現をめざす。
整備した 設備・物品	超短焦点プロジェクタ 2台（HR 教室） 壁設置型ロールスクリーン 14台 電源及び接続用ケーブル 14教室分
取組みの 主担・実施者	主担 ： 校長、教頭 授業力向上委員会（指導教諭、校長任命の教諭） 校内 ICT 環境整備 PT（情報主担、首席、教務部 ICT 担当、校長任命の教諭） 実施者： 全教職員

<p>本年度の取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ関連教育環境整備事業により常勤教員の1人1台端末を整備した。併せて、電子掲示板（Classroom）を学年別・全クラス・講座別に解説し、授業に関する連絡や課題配信を行う環境を整備した。 ○ また、上記のクラス別掲示板に日々の健康観察状況調査（フォーム）を掲載し、生徒の健康状況の把握、コロナウイルス感染が確認された時には、発症日の特定や、濃厚接触者の健康状況等を速やかに確認できるよう、システム運用を行った。 ○ オンライン授業PTを中心に、生徒端末の活用方法について資料を作成し、統合ICTの掲示板および教員用掲示板（Google）に掲載し、情報共有を図った。なお、別途教員研修は、ICTサポーター（モデル8校コミュニティ（教務G）支援）によるものも含め、のべ17回実施し、教員のリテラシー向上を図った。 ○ 授業改善の取組みについては、管理職による授業観察時に確認した好事例や、授業力向上委員会が主体的に実施した公開授業週間における好事例を校内での実践事例として電子掲示板に掲載し、共有を図った。また、1・2学期に実施した授業アンケートについては、昨年同様に集計結果および関連データの個票を作成し、全教員に振り返りを実施させ、各自の取組みを自己評価させることにより、更なる改善を図った。 ○ 授業力向上委員会が中心となり、次年度から学習指導要領が改定され、これまで以上に3観点を意識し、授業計画の策定を図った。（時間割内の教科会を設定し、パフォーマンス課題の設定・評価等について議論を深めることができた。）
<p>成果の検証方法と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）…………… 52% <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の興味関心の醸成 ・知識・技能の習得感等の生徒意識の肯定的回答の割合 ・同アンケートにおける教材活用や授業展開に係る設問に対する肯定的回答の割合 ② 学校教育自己診断（生徒用）における家庭学習1時間以上の生徒の割合…………… 50% ③ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力（2年次のCゾーン以上の割合）… 45% ④ 希望進路実現率の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・難関・中堅私立大学への進学者数…………… 20名 ・就職試験（1次）の合格率向上…………… 昨年度を上回る（71%）
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業アンケートにおける生徒の授業満足度（強い肯定）の向上…………… (○) 各科目の興味関心の醸成や知識・技能の習得感等の生徒意識の肯定的回答は、前期 82.3% → 後期 84.9% (令和2年度 前期 80.9% → 後期 81.6%) と前年度より3ポイント増 教材活用における評価は、令和2年度 3.31 から令和3年度 3.36 と増加しており、ICT機器の有効活用と授業改善の進行を確認。 ② 家庭学習時間…………… (△) 家庭学習時間が授業以外の学習1時間以上 32% (← R2年度 28.9%) 引続き、進路目標の設定や学習への関心を高める必要がある。今年度については、電子掲示板への課題・宿題配信等、家庭学習時間増加に向けた新たな取組み（ツール）を確立することができた。 ③ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上…………… (△) 1年生：ベネッセ学習到達ゾーン「Cゾーン以上」223人（1学期）→227人（2学期）→122人（3学期）[前年3学期 125人] 2年生：ベネッセ学習到達ゾーン「Cゾーン以上」187人（1学期）→180人（2学期）→104人（3学期）[前年3学期 68人] 入学後のCゾーン減少傾向に歯止めをかけるため、②-2同様、進路目標の設定や探究心を抱かせるよう日々の授業改善等さらなる取組みが必要。2年当初のCゾーンについては、前年（1年次）3学期に比べ挽回できた。 ④ 希望進路実現率の向上 ・難関・中堅私立大学への進学者数…………… (○)

	<p>令和3年度13名（R2年度：12人、R1年度：12人、平成30年：19人）となっている。直近3か年では、合格延べ数は大幅に増加しており、入試制度を理解し、諦めずに受験する生徒が一定数いた。また、公立大学に受験した生徒が数年ぶりに現れ、個別に学習支援を行った。</p> <p>・就職試験（1次）の合格率向上……………（○） 1次合格率100%、昨年55%、一昨年71%に比べて改善した。</p> <p>2年生の3学期に就職希望者対象のガイダンスを実施し、早期に指導を始めたことが結果として現れた。また、前年度に行った企業担当者との面談で指摘された、志望理由の深堀りや一般教養「数的処理」分野の強化等を踏まえた指導を行ったことが、良い結果に繋がった。</p> <p>※ 補習・講習への参加 補習・講習は、延べ3175人（補習1926人・講習1249人）[2月末]に対して実施した。また、オンライン課題・実力考査解説動画等を配信する等、オンラインを活用した学習保障も取り組むことができた。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>今年度末に教員用コンパチブル端末を導入予定であり、1学期から授業の振り返りや教材提示等での利用を模索させる。（今回導入のプロジェクトによる提示）</p> <p>日々の授業改善と共に、総合的な探究の時間等による進路実現に向けた各種取組みにより、進路に対する目標設定や実現のためのプロセス確認等、生徒の学習活動の進捗状況を確認しながら実践を進める。</p> <p>また、2学期からは生徒1人1台端末の導入も予定されており、どのように活用するか等についても校内での検討を深めるとともに、リテラシー研修による教員のスキル向上を図る。</p>